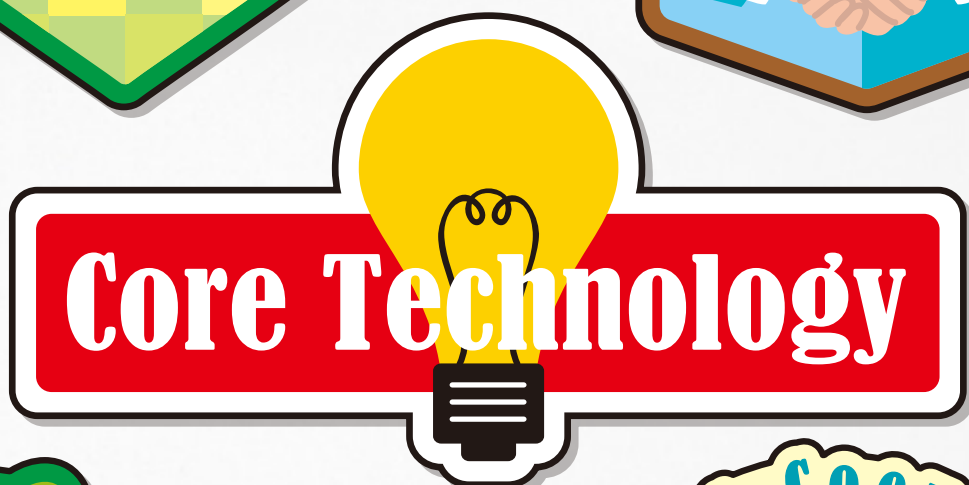


CSR

REPORT 2022



しなやかでたくましい会社

Flexibility and Vitality

西川ゴム工業株式会社は、

2022年4月に設立73年を迎えた広島のシーリングカンパニーです。

サンダルやゴムボールなど日用雑貨の製造からスタートし、

戦後のモータリゼーションの流れの中で

自動車用部品製造を基礎として事業を展開してまいりました。

これからも世界中のお客様に「快適」をお届けしてまいります。



CSRへのアプローチ

正道

我々は常に正道に立って社業を運営し、会社の真の発展は社会の福祉、世界の進運に寄与するものでなければならない。

和

我々は共に会社の根幹であることを認識して「和の心」をもって相寄り助け互いに善意と良識をもって一致協力することが何より大切である。

独創

我々は企業の生命が独創と意気にあることを認知して自らの仕事に誇りと責任を持ち、また反面事を処するに当たっては謙虚な気持でこれに向わねばならない。

安全

我々は各個人の幸福が会社全体の繁栄を基盤にして初めてきずかれることを知り、すべて会社の組織を重んじ、規律に従い冗費を省き、災害防止に万全を期し、もって堅実にしてまじめな、また自由にして秩序正しい社風を培ってゆくことが必要である。

己の立てる所を深く掘れ、そこに必ず泉あらん
(ニーチェの言葉)

- 企業統治と企業の社会的責任
- 企業風土の継承
- 持続可能な社会への貢献
- 安全衛生と成長
- 独創・挑戦
- 品質と技術で競争優位の確立

- 西川ゴムグループ2025年中長期経営計画
- 西川ゴム工業株式会社SDGs宣言
- 環境方針 ● 品質方針 ● 健康推進宣言
- 社会貢献活動理念
- パートナーシップ構築宣言

社是

経営理念

基本行動指針

経営計画
活動方針

Contents

- | | | | |
|----|----------------------|----|----------------------|
| 02 | CSRへのアプローチ | 19 | SDGs宣言／コア技術で探求する快適空間 |
| 03 | TOP MESSAGE | 21 | SDGs宣言／地域社会との共生 |
| 07 | 価値創造プロセス | 23 | SDGs宣言／安全・健康な職場づくり |
| 09 | 西川ゴムグループ2025年中長期経営計画 | 25 | SDGs宣言／公正な事業慣行 |
| 11 | ESG推進室・ESG推進委員会の発足 | 27 | 環境データ |
| 13 | 事業紹介／自動車関連製品 | 29 | 環境パフォーマンスまとめ |
| 15 | 事業紹介／住宅・土木・粧装関連製品 | 30 | その他データ |
| 17 | SDGs宣言／環境に配慮したモノづくり | 31 | 企業情報 |



社員には仕事も含めて
人生を楽しむ社会人になってほしい
そのためには――

代表取締役社長

福岡美朝

リスクを チャンスに変えて

当社グループの主力事業は自動車産業、住宅産業などの一翼を担っていますが、現在、当該事業を取り巻く経営環境は非常に複雑さを増しています。コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、半導体不足、円安など、あらゆる要因が絡み合い、予測困難な状況を呈しています。また当社グループは自動車関連製品を手がけていることから輸出企業と見られがちですが、使用する原材料の大半が原油由来であることから輸入企業の側面もあり、グローバルでの供給問題や価格の変動など多種多様なリスクにさらされざるを得ません。

こうした厳しい状況の中、当社グループはこれまで培ってきた様々な技術とグローバル・ネットワークを軸に、逆にリスクをチャンスにも変えられる「しなやかでたくましい会社」であり続けるため、力を尽くしています。EV(電気自動車)化が進む自動車産業ですが、エンジンから電気モーターへ駆動源が変わったとしても、ドアやトランクなど開口部がある以上、当社の主力製品であるシール材はどんな車種にもなくてはならないものです。近年はEV化によって車内が静かになり、今までエンジン音にかき消されていたロードノイズなど外部の音が車内で聞こえるようになったため、それを防ぐための優れた遮音・防音性が求められるようになりました。また住宅業界においても同様に、上下階間・部屋毎の遮音・防音性が従来にも増して要求されております。当社では長年に渡り「音性能」というシーズに着目し、研究開発を続けており、いち早くそうした社会のニーズに対応した製品開発を行い、各自動車メーカー様・住宅メーカー様から高い評価と信頼をいただいております。

モノづくりを支える 社員を重視

モノづくりの根幹を支えるのは「人」です。当社ではあらゆるステークホルダーの中で、社員が特に大切な

存在と捉えています。私は毎年新入社員の皆さんに向かって、「仕事を楽しむ人間になろう」というお話をしています。それまで大学や高校で、価値観が比較的近い同年代の友人たちと過ごしてきたのが、いきなり年上の人たちと交じって働くことになるわけですから、カルチャーショックは大きいでしょう。しかしそれはそれとして社会人という自覚のもとに受け入れ、そのうえで仕事も含めて人生を楽しんでいただきたい。近年のワークライフバランスという言葉が表すように、仕事もプライベートも楽しむ社会人になってほしいのです。別な言い方をすれば、仕事とは十中八九が大変なものです。一生懸命やっていたら一つや二つは必ず楽しい事があります。それをしっかり見出せる人間になってほしいと願っています。

ESG推進に向けて 本格的に始動

CSR(企業の社会的責任)に関するお話をさせていただきます。当社グループにおけるその基本は、今から半世紀以上前に制定され、連綿と受け継がれてきた社は「正道 和 独創 安全」にあります。これをベースとして2020年度にはSDGs宣言を行い、2021年度にはESG目標を掲げた「2025年中長期経営計画」を策定。さらに取締役会の直下にESG推進委員会を設け、E(環境対応)・S(社会性向上)・G(ガバナンス向上)の各分科会が、それぞれ本格的な活動をスタートさせました。

まず、各企業とも重要なテーマは脱炭素への挑戦です。これは省エネとあわせてクリーンエネルギーをどのように確保するかが大きな課題になっていますが、2030年には2013年度比で温室効果ガスを46%削減するという日本政府の目標に向け、当社もたゆまぬ努力を重ねていかなければなりません。私自身も中国地方の経営者を対象としたカーボンニュートラルのセミナーに参加し、他社の実践事例にも学ぶなど、理念の実現に向けて柔軟な発想を心がけています。

一方、産業廃棄物に関する取り組みでは、当社ではゼロエミッション(廃棄物をリサイクルなどによって



主体的に仕事と向き合えば やりがいや面白さが 生まれる

ゼロにすること)を達成しています。その内訳としては、廃棄物を燃料として再利用するサーマルリサイクルと呼ばれる手法が半分以上を占めますが、現在はいかに廃棄物自体の量を減らすかという段階に入っています。最も重要なポイントは製造工程での不良品の発生をなくすことで、不良品ができることはそれだけ廃棄物が出ることとなりますので、そういった意味でも良品しかできない工程づくりを目指しています。

スキルが向上することで やりがいが生まれる

社員には仕事を楽しんでほしいと先に述べましたが、そのためにはワーク・エンゲイジメントの向上を図ることも欠かせないと考えています。当社におけるワーク・エンゲイジメントスコアは、平均値で見れば比較的高い数値を示しています。しかし細かく見ていけばまだまだ改善すべき点はたくさんあります。私は多くの社員がやりがいをもって生き生きと働く会社であるためには、教育が大きな柱になると考えています。上から言われて仕事をするのではなく、自らのスキルや知識を高めることで主体的に仕事と向き合うことができれば、当然やりがいや面白さが生まれます。

また、こうした質の高い教育を行うためには、教える立場の管理監督職に対しても教育が必要です。教える側がそもそも上から言われたから指導している、というような態度では意味がありません。若手社員

からの質問に対してきちんと説明ができる、という能動的なかわり方が大事なのです。部下からの「ホウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)」を求めるためには、上司の適切な「メイ・カイ・エン(命令・解説・援助)」が重要なポイントとなります。

男女を問わず 活躍のステージを

多様な人材が活躍できる環境づくりについても触れておきます。私は男女を問わず、やりたい人、やれる人にチャンスを与えるのは当然だと考えています。ただ歴史の長い組織ほどジェンダー平等の概念が浸透するには時間がかかることも認識しています。そのためには制度の拡充だけでなく、教育などを通じて、従来からの固定概念に囚われない意識改革を行っていくことが必要と考えています。当社グループの海外拠点に目を向けると、社長に相当する役職に就いている女性も存在しますし、国によっては女性管理職比率が40%を超える所もあります。そもそもこうした活躍の場を女性に積極的に提供してこなかったのが日本の企業ではないでしょうか。これからは女性が大いに活躍する社会であるべきです。将来は「男女比率」などの言葉がなくなる社会になればと願っています。

また、これも男女を問わず、育児休業などの制度もしっかり活用してほしいと思います。当社では実際に多くの社員が制度を活用しており、男性の育休取得

実績もあります。こうしたことがいたって当たり前であるという企業文化はすでに根づきつつあります。

ガバナンス(企業統治)については、当社ではコンプライアンス推進室を設けてグループ内の法令遵守を徹底しているほか、監査等委員である取締役を4名(うち3名が社外取締役)置き、そこから様々な提言を受けています。また定期的にリスク・コンプライアンス教育を実施しています。こうして客観的な視点を取り入れることで、よりよい施策づくりに活かしています。

未来へ向けて 求められる企業に

これからも社会に求められる企業であり続けるためには、財務目標値(売上、利益)でははかれない部分、つまりESGのような非財務目標値こそが大切ではないかと私は考えます。企業として売上、利益を追求するのは当然のことですが、しかしそれだけでは長い目で見ると社会に存在を認められないこととなります。ESG、ひいてはSDGsの理念実現に向けて、社会と一体になって取り組むことで社内にもよい雰囲気生まれ、また社員がモチベーション高く働くことで



結果的に財務目標値、非財務目標値も達成されると考えます。そのような好循環を生み出していくことが重要なのです。

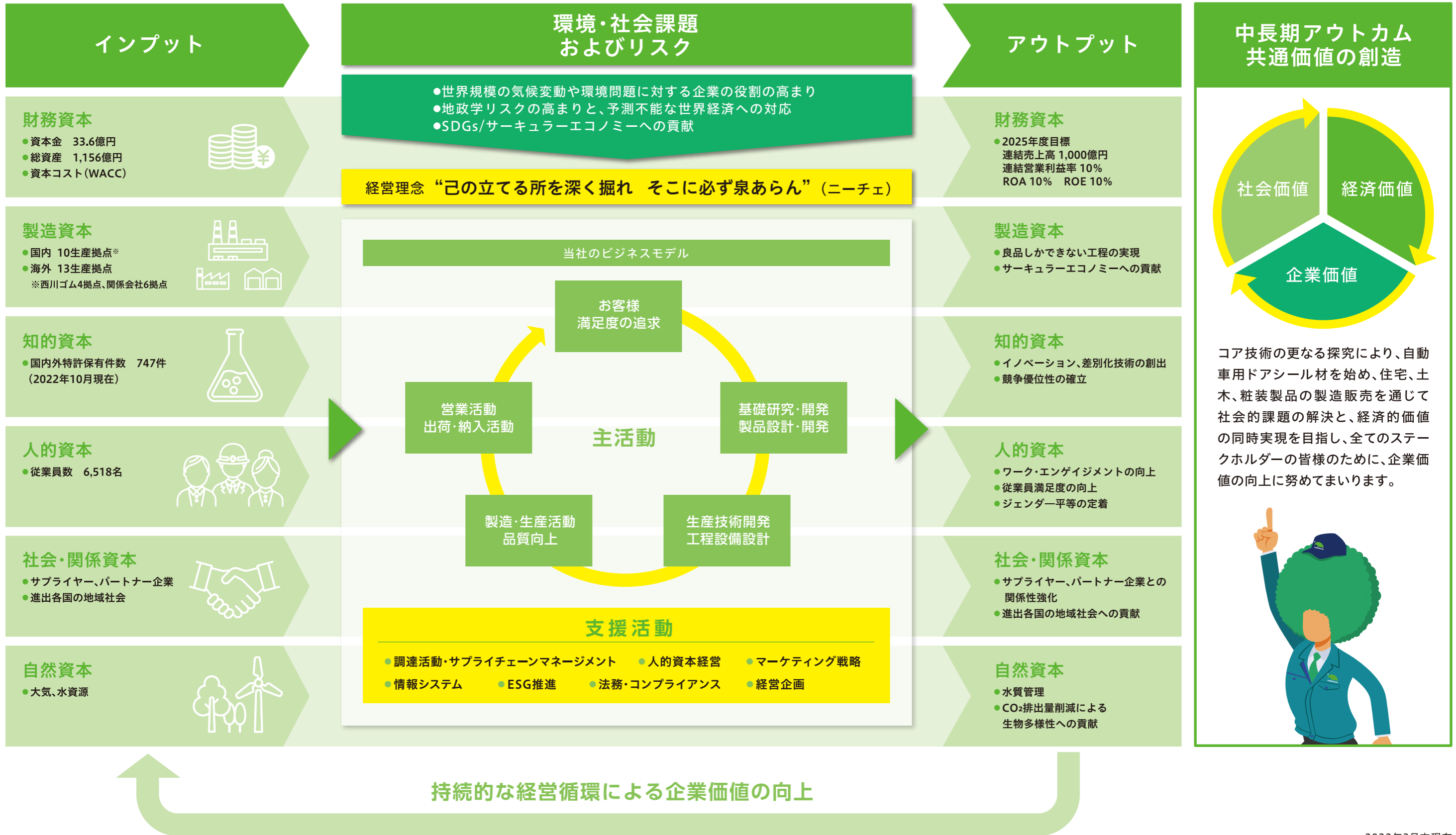
これまで述べてきたように、キーとなるのは「人」です。社員が楽しく、やりがいを持って働ける会社こそが、未来に向けて前進できると思います。私は関西人ですから、最後にざっくばらんな表現で申し上げれば、とにかく「オモロイ会社」であってほしい、そして「この会社におったら仕事は難しいこともあるけど、オモロいなあ」と感じる人を増やしていきたい、それが一番の願いです。

この会社におったら オモロイなあと感じる 人を増やしたい





しなやかでたくましい会社 – Flexibility and Vitality –



あらゆる経営環境の変化を乗り越え、 更にしなやかでたくましい会社を 目指します

当社グループは2021年6月に「西川ゴムグループ2025年中長期経営計画」を公表しました。
従来は10年単位で長期ビジョンを策定してまいりましたが、世界経済の不確実性や地政学リスクの高まりを受け、一步一步確実に成長を続けるために中長期マイルストーンとしました。
2030年、持続可能な社会への貢献と永続する企業を目指して全社一丸となって進んでまいります。

2030年

さらなる
飛躍へ...

2025年 目指す未来の姿

『良品しかできない工程』これが私達が目指す姿です。多様な社会課題の解決と、経済的価値の同時実現に向け、全員で力を合わせて達成します。

良品しか
できない
工程を実現
している

競争
優位性
を有している

業界No.1
シェア
企業へ成長
している

脱炭素
社会
に大きく
貢献している

■ 経営目標値

目標項目	目標値
連結売上高	1,000億円
連結営業利益率	10%
連結総資本営業利益率(ROA)	10%
連結株主資本当期純利益率(ROE)	10%

■ ESG目標

ESG重要課題(マテリアリティ)

主な実施事項

脱炭素企業への挑戦

西川ゴムグループ並びに国内協力企業を含め、CO₂原単位と排出量の削減に取り組む

産業廃棄物ゼロへの挑戦

環境汚染の原因となる産業廃棄物の削減に取り組む
生産にともなうロス廃棄物を最小化する

環境負荷物質管理

各国の環境法令を確実に認知し、グループ全体で準拠する

従業員満足度および エンゲイジメントの向上

従業員がやりがいや働きがいを感じ、
意欲を高め、主体的かつ意欲的に業務
に取り組むことができる企業文化を定
着させる

企業統治と企業の 社会的責任の追求

企業統治と利害関係者への情報開示の
充実を図り、経済活動を通じて社会課
題解決に寄与し、企業価値の向上に取
り組む

2021年 体制づくりの推進

「やめる・変える・続ける」 +「加える」の全体推進

DXや業務改革を進め、仕事効率を
高め、付加価値を加えていきます

具体的なSDGsの 取り組み

ESG推進体制をつくり、目標を設定し、
具体的な活動を開始します

全社員が収益意識を 高める取り組み

全社員が収益意識を高め、
全員経営を目指します

2025年



2023年



2021年



2023年 企業価値を高める取り組み

新技術・新素材・ 新製品の開発

競争優位な製品や
環境に良いバイオ製
品など、多様な新技
術開発を行います



プロセスイノベーション の確立

工程から排出される
CO₂の削減技術や、革
新的な新工法の開発を
目指します



非自動車新規 事業の創出

事業ポートフォリオを
生み出す新規事業の
創出を目指します



働き方改革の 推進

仕事もプライベートも
楽しめる会社になります



ジェンダー平等の 定着

男女を問わず全員が
平等に活躍できる会
社になります



従業員ワーク・ エンゲイジメントの向上

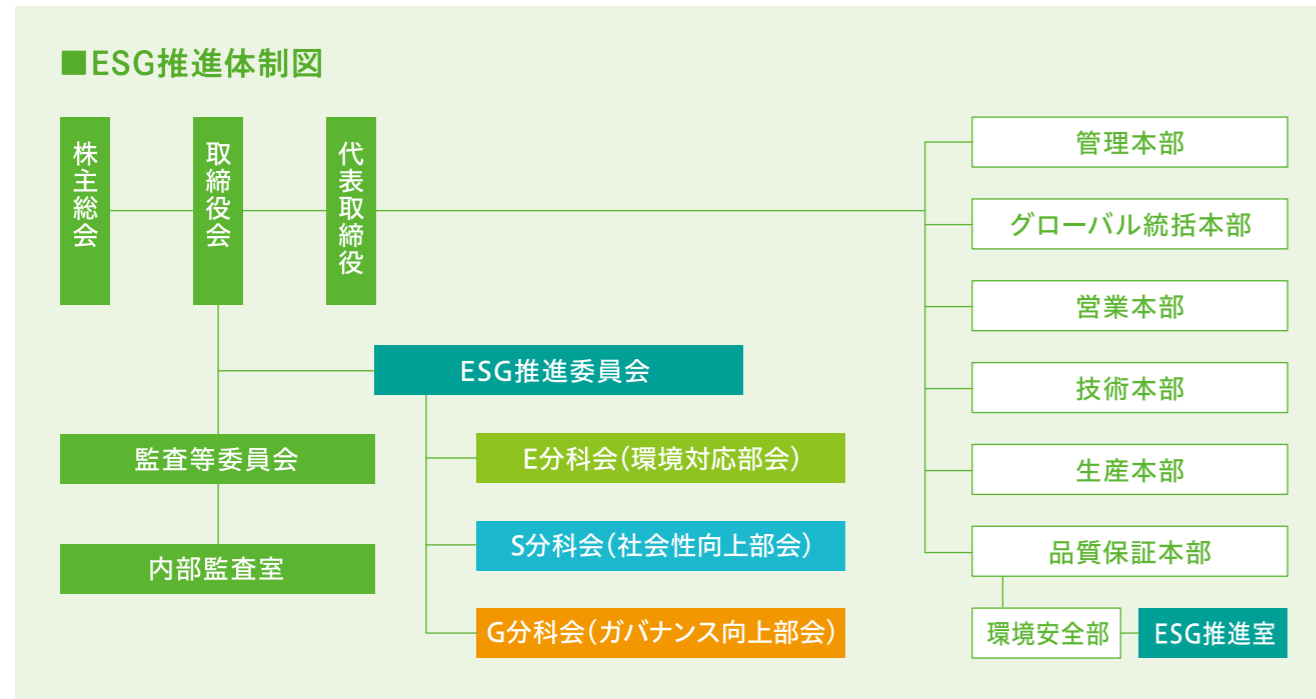
スキルや知識を高めて、
仕事に向き合い、やりが
いと面白さを感じられ
る職場を目指します



西川ゴムグループの ESG推進体制を強化

～持続可能な社会の構築を推進～

「西川ゴムグループ2025年中長期経営計画」において定められたESG目標達成に向け、ESG推進室・ESG推進委員会が発足。社会課題の解決に向けた取り組みを通して、中長期での経営基盤の充実と企業価値向上を目指します。



新しい推進体制への移行

スピード感をもって 着実に歩を進める



当社は、2021年6月に公表した「西川ゴムグループ2025年中長期経営計画」に基づき、売上高や利益率等の財務目標だけでなく、新たにESG目標を掲げ、持続可能な社会の構築も見据えた取り組みを開始しております。その第一歩として2021年10月に品質保証本部 環境安全部にESG推進室を新設し、これまで各部門で個別に対応していたサステナビリティに関する活動を、全社をあげた活動へと拡大させるための準備を開始しました。そしてより実効的かつ効率的に推進するため、2022年3月に取締役会の下部組織としてESG推進委員会を

設置し、西川ゴムグループのESG推進体制を強化しました。ESG推進委員会で決定した方針や答申については、さらにその下部組織であるE分科会(環境対応部会)、S分科会(社会性向上部会)、G分科会(ガバナンス向上部会)にて幅広い視点から具体策を検討・議論した上で、各本部や部門の活動へと反映されます。新しいESG推進体制へ移行して日は浅いものの、既に成果があらわれた活動も出てきました。今後も引き続き目標達成に向け、これまでにないスピード感を持って着実に歩を進めてまいります。

ESG推進委員会

取締役会の下部組織として、委員長(社長)、副委員長(専務)、各本部長を中心とした選抜メンバーで構成しています。ESG経営に関する部署横断的な議論の場として機能し、委員会の決定事項を取締役会へ報告(年4回)します。

【委員会の主な役割】

- 戦略および方針や予算、目標値の策定
- 進捗の把握、分科会間の情報交換
- 重要な事項を協議

ESG推進室

ESG推進室は、各分科会からの審議・報告・検討資料を取りまとめ、ESG推進委員会の運営を行うと共にESG(環境・社会・ガバナンス)の基本方針・重要課題をグループへ展開・推進します。また、ESG経営に関する各種情報を収集し、ESG推進委員会・分科会メンバーへの情報共有を行います。



分科会

E 分科会/環境対応部会

循環型社会の実現に貢献

E分科会では「脱炭素企業への挑戦」、「産業廃棄物ゼロへの挑戦」、「環境負荷物質管理」の3つの活動を柱として、循環型社会の実現に貢献していきます。CO₂や産業廃棄物に対して排出実態の見える化を促進させながら、省エネや廃棄物削減に向けた全社活動を活性化していくとともに、将来的なカーボンニュートラルやゼロエミッションの実現に向けて、再生可能エネルギーの導入や軽量化、リサイクル、低CO₂材料や設備の導入といった環境に配慮した技術の革新を推し進めていきます。また、環境負荷物質管理を通じて、環境法令の認知と遵守を西川ゴムグループ全体で徹底していくことで、地球環境の負荷軽減に貢献します。

S 分科会/社会性向上部会

ステークホルダーとのつながりを深める

S分科会は「社会性向上」(当社の社会的な存在意義を高めていく)を目的に設置されており、地域美化活動や地域を支える活動への寄付や参画など、ステークホルダーの皆様とのつながりをより深めていく様々な取り組みを行っております。その中でも今年度は「①従業員満足度およびワーク・エンゲイジメントの向上」と「②社会性向上活動の積極的開示」を重要課題として位置づけ、①については、管理職層への自主的学習のための機会付与や人権に対する取り組み、健康経営に向けた職場環境改善など、ワーク・エンゲイジメントが高まる職場環境づくりを推進し、②については自社ホームページでの積極的な活動紹介を進めております。

G 分科会/ガバナンス向上部会

会社が持続的に成長し続けるために

G分科会の名前にある「ガバナンス」とは、組織を公正に運営するための体制や仕組みを指しており、会社が持続的に成長し続ける上で基盤となるものです。そしてその体制や仕組みは会社によって様々であり、また組織の大きさや時流の変化によって求められる事は変わっていきます。G分科会では「企業統治と企業の社会的責任の追求」を重要課題として位置づけ、現在は部門の垣根を超えて集まったメンバーと共に、外部評価機関からの指摘内容の分析や他社との比較による当社の強み/弱みの把握を通して、当社にとって最適なガバナンスのあり方を探る活動をしております。



▲G分科会会合

雨・風・音を止める プロフェッショナル



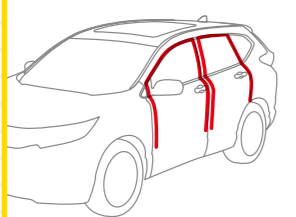
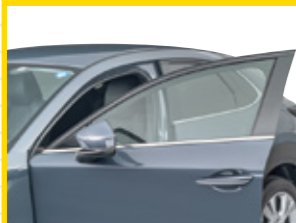
当社が国内トップシェアを誇る自動車用ウェザーストリップ。これは、ドアまわりに装着して、外からの雨・風・音の侵入を防いで車室内をこちち良く保つシール部品です。表舞台に出ることの少ない部品ですが、その役割は極めて重要。快適ドライブになくなくてはならない必須アイテムです。

自動車のあり方が多様化していく中で、今その役割はますます重要に。設計・材料・モノづくりのプロフェッショナルの知・技・力が、ベストソリューションをご提供します。

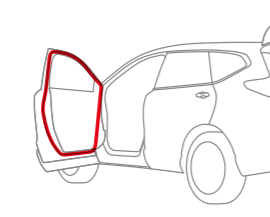
各種ウェザーストリップ



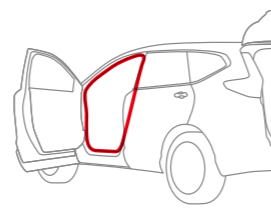
ガラスチャンネル



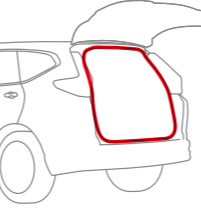
ドアアウターシール



ドアインナーシール



トランクリッド



nishikawaブランドを支える 3つのキーテクノロジー



カスタマーニーズに応えるロジカルデザインカ

ウェザーストリップは、車種ごとのオーダーメイド設計で、それぞれドアとボディ間の限られた間隙スペースの中で封止と排水を両立させる必要があります。自動車メーカーへの車両構想段階からの積極的提案や先進CAE駆使により効率的に最適シール断面を構築し、車両にベストマッチするシールシステムを実現します。



シール&フォームエンジニアリングの根幹

ウェザーストリップは一見単純なゴム紐のようですが、その機能は複数で構成も単一ではありません。時に6層構成のものもあり、様々な材料の特性を見極めて適材適所の構成・配置をしています。中でも発泡(フォーム)スポンジゴムは当社が最も得意とする強みの部分。剛性も合わせ持つ「微発泡」から、他にないソフトな発泡を誇る「超発泡」までバラエティに富んでいます。特に低比重超発泡シール技術 **Hysoft**®は当社の技術の粋といえます。



モノづくり現場を進化させる共創力

ウェザーストリップのモノづくりは、工程設計・設備設計・工程改善の3つのフェーズが支えています。生み出されるその工程は、当社オリジナルなものばかり。原材料を混練りし基礎物性をつくり上げる「精練工程」、ウェザーストリップの直線部分を形成してゴム弾性を発現させる「押出工程」、コーナー部成形と機能付与の「仕上工程」。標準を守りつつも新たな工法も積極的に織り込んで、アグレッシブに工程をつくっています。



自動車用シール部品国内シェア(2021年度)

当社グループの製品は、国内シェアナンバーワンを誇ります。国内で生産される車についている自動車用シール部品の約半分は、当社グループの製品です。(当社調査)



独立系部品メーカーなので、国内全ての自動車メーカー様と取引があります!





まちや暮らしの こち良さを支える



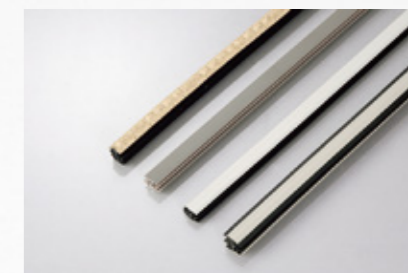
西川ゴムグループの製品は自動車関連製品だけではありません。ウェザーストリップの製造で培ったゴムの発泡・加工技術を応用し、その領域は、住宅・土木・粧装関連製品にまで及びます。人々の生活、社会環境、そして未来に寄り添い、暮らしの中の様々なシーンでこち良さを提供しています。



ここにも息づく nishikawaブランド

住宅 関連製品

多彩な機能のシーリングで快適な住まいを実現
外壁のパネルのすき間から侵入する水や塵を防ぐ目地ガasket、防音性や気密性を考慮して設計されたドア用シール材など、当社の押出技術を活かした製品を各種取り揃えています。
特に目地ガasketは外壁との一体感を考慮してデザイン可能で、かつ耐久性や施工性に優れていることから、多くの国内住宅プレハブメーカーで採用されています。



目地ガasket

土木 関連製品

インフラの安全を支える確かな技術
当社グループの下水道用可とう継手は、日本下水道協会発行の「下水道施設の耐震対策指針と解説」で示されたレベル2地震動を想定した条件下での水密性をクリアし、土木の現場で活躍しています。他にもボックスカルバート用製品等、高い耐震性と水密性を有しながら様々なサイズに対応しています。



ANジョイント、支管ジョイント等

粧装 関連製品

こだわりの発泡でもっと優しく美しく
長年培ってきた発泡技術は化粧用パフにも使用されています。パウダー用、リキッド用など様々なニーズにあわせたパフを製造し、国内有名化粧品会社から採用されています。また、自社ブランド“natulove(ナチュラブ)”では、こんにやくイモから抽出したグルコマンナンを発泡技術でフォーム状にした、人にも地球にも優しいこんにやくスポンジも製造・販売しています。



広島れもんパフ、こんにやくスポンジ

当社グループオリジナル商品

広島の特産品である2色のレモンをイメージした「広島れもんパフ」は、企画から製造まで当社グループで行っております。他にも広島土産にピッタリなオリジナル商品も各種販売中です。

Natulove
公式サイトは
コチラ



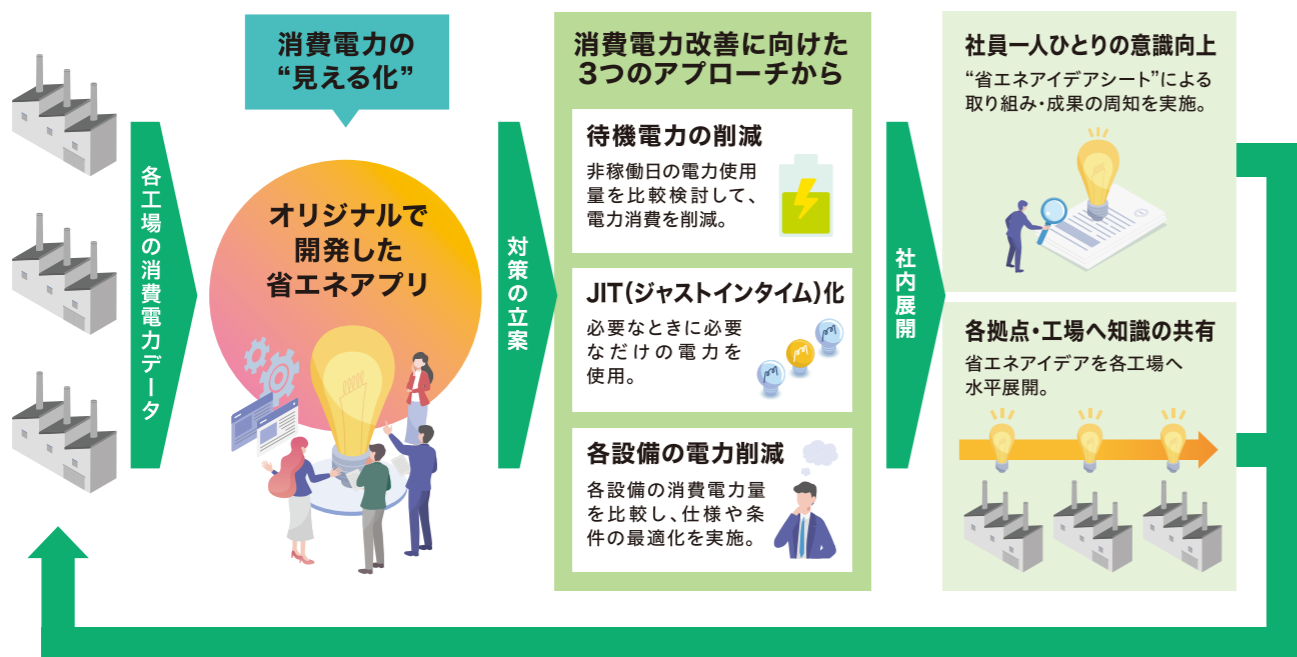
環境に配慮したモノづくり

製造過程での省資源化・CO₂排出量削減等の環境負荷低減に取り組み、地球にやさしいシール製品づくりを推進するとともに、良品しかできない工程・工場を目指します。



消費電力を“見える化”する独自のシステムで、省エネを推進

当社では、製造工程における電力の消費を“見える化”する省エネアプリをオリジナルで開発し、電力の使用を管理しています。消費電力を“見える化”するメリットは、まず、電力をいつ、どこで、どれくらい消費しているか把握できることです。そこから省エネを強化すべき対象を明らかにして、効果的な改善活動へつなげています。さらに改善結果も“見える化”されるので、省エネへの意識も高まります。



POINT 01 全工場のシステムと省エネアプリを連携

すべての工場に消費電力監視システムが導入され、各データは、BI(ビジネスインテリジェンス)ツール上の省エネアプリに集約されます。ここで、全工場の消費電力データを可視化・分析することが可能です。時間帯ごと、ラインごと、設備ごとなど、様々な区分けで確認できるので、たとえば「同じ設備でなぜ消費電力量が違うのか?」「問題のあるラインはどこなのか?」など、改善対策を講じるための検証をあらゆる角度から行えます。

POINT 02 全社で共有する省エネ意識

当社では、ひとつの工場で成功した省エネアイデアを、他工場に水平展開する仕組みをつくり、効果的・効率的に活動規模を拡大させています。活動事例は“省エネアイデアシート”として新聞形式にまとめ、全工場に展開しています。そこでは貢献度を肌で実感できるように、効果の大きさを具体的な例を用いながら表現できるよう工夫しています。社員一人ひとりの省エネ意識を高め、活動を日常的に活性化させていくことが狙いです。今後も様々な視点から体制や設備を効率化し、省エネが全社に根付いていくよう活動を推進してまいります。

省エネアプリを活用した改善活動の事例

- 【待机電力削減】**
 - エアリークテスターを用いた定期的なエア漏れ保全によりエアコンプレッサの稼働を抑制
 - トランスの稼働状態に応じた集約化で待机電力を削減
- 【ジャストインタイム】**
 - 押出温調機が必要な時のみ起動できるように自動制御化
 - 成形機の昇温開始時間を適正化して電力消費時間を短縮
- 【各設備の電力削減】**
 - 電磁弁の異常を発見・修復して消費電力を削減
 - 加熱装置の温度設定を最適化して消費電力を削減

環境方針 基本理念

当社は、環境保護を経営の重要課題として位置づけ、開発・設計・購買・生産・物流・販売・廃棄までの製品のライフサイクル全段階にわたって、社是(正道、和、独創、安全)の精神で「地球にやさしい事業活動」をグループ全体で取り組みます。



行動指針

- 1【法令遵守】**
環境関連の関係法規制等、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守します
- 2【環境に配慮したモノづくり】**
省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物の削減、環境負荷物質(有害化学物質)の使用抑制及び汚染の防止に取り組み、その継続的改善による環境保護に努めます
- 3【社内啓発活動】**
全従業員の環境に関する法律遵守及び環境への意識向上を図るため、環境教育を継続的に実施し、全社的な環境保護を推進します

脱炭素企業への挑戦

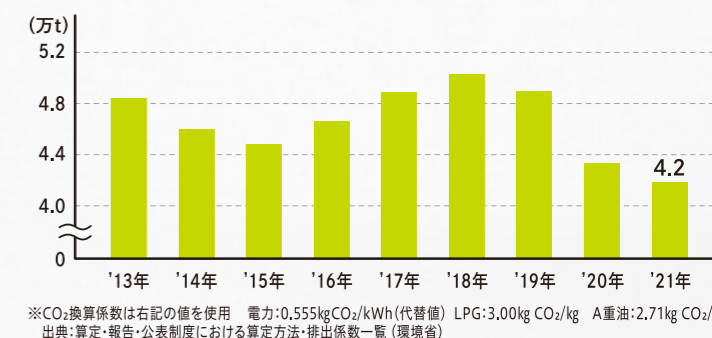
「2030年にCO₂排出量を2013年度比46%削減」に向け、国内協力企業も含めて排出量削減に取り組んでおります。

■太陽光発電の取り組み



当社のタイ子会社にて太陽光発電の導入を決定し、建設工事に取り掛かっています。この太陽光発電は工場で使用する電力の一部を供給する予定としています。

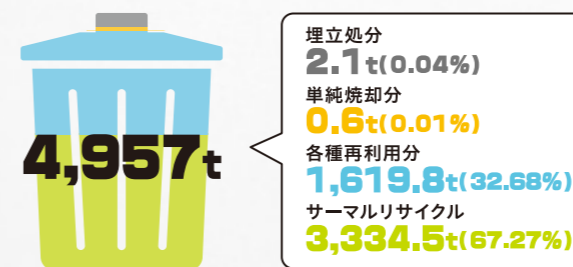
■CO₂排出量推移(単体+国内関係会社)



ゼロエミッションの推進

「環境汚染の原因となる産業廃棄物の削減に取り組み」、「生産にともなうロス廃棄物を最小化する」の考えの下、活動を進めています。

■2021年度 リサイクル内訳(単体+国内関係会社)



■廃棄物量推移(単体+国内関係会社)



■産業廃棄物管理電子システムの導入

現在、国内各関係会社へ導入している産業廃棄物処理状況の一元管理を目的とした「電子マニフェスト」システムを活用し、各種の廃棄物処理にかかわるコンプライアンス違反のリスク低減と、業務コストの改善を継続推進しています。



情報の集約

- マニフェストの電子化
- 紙と電子の情報一元化
- 許可証、契約、マニフェスト情報

日常の業務と管理

- 許可証、契約、マニフェストの整合性チェック、期限チェック
- 法定保管期間の確認、回付・情報期日の確認
- 廃棄物コンプライアンス精度向上

情報の活用

- 廃棄物、最終処分量の削減計画
- 処理委託先の適正判断
- 行政処分情報、法改正情報監視
- 各種集計、レポート

コア技術で探求する 快適空間

環境に寄与する技術を積極的に用いて、
形状・素材・工法・環境など多面的にシール&フォームエンジニアリングを深耕し、
クルマや住宅の室内環境の快適・静寂・安心を実現します。



AIで進化する最適ドアシール設計

ウェザーストリップづくりへのAI導入

コンピュータに分析・学習・推察させる技術、AI(人工知能)を段階的に導入し、ウェザーストリップ事業へ活用します。

当社はこのAI導入の1stステップとして、AIを押出工程におけるワーク表面の外観不良検査へ導入しました。ワーク表面をカメラで撮り、コンピュータに過去の不良品画像と比較させて合否判定を深層思考(ディープラーニング)させるといいます。人間の継続的な判断力には限界があるので、そこに先進のしくみを取り入れることで検査効率と精度は確実に上がります。

続く2ndステップとしては、押出直後のまだゴム弾性がついていない状態のワーク形状が自重等によりどう変化するかについて、同じくコンピュータにAI推察させています。これにより、これまで熟練者の経験と勘でこなしてきた暗黙知の領域に光明を入れることができています。

そして今、3rdステップとして、ウェザーストリップの断面形状設計へのAI導入を開発スタートしました。

AI導入の3ステップ

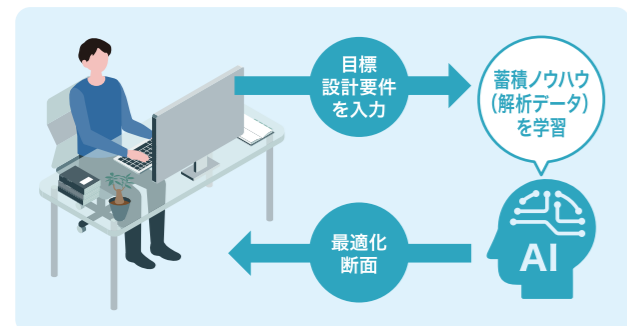
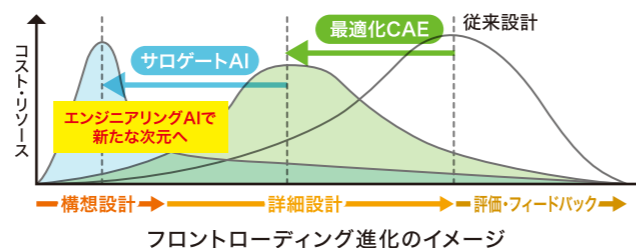


先進技術の融合でシール設計を飛躍

CAE最適化技術とAI深層学習(ディープラーニング)を融合。システムの進化により、コア技術の飛躍を目指します。

ウェザーストリップは、車室内へ雨・風・音が入るのを防ぐシール材ですが、実際のクルマづくりでは、ドアやボディの建て付けバラツキを許容してシールを機能させる必要があります。そのため断面形状設計が極めて重要になります。当社は、長年ここにノウハウを蓄積していますが、今期これらノウハウをAIに取り込み、AIによる最適設計システムを開発しました。

近年の複雑形状設計は“遺伝的アルゴリズム”でのCAE解析により、求める形状を網羅的に自動探索する手法ですが、開発システムはここにサロゲートAI(Surrogate:代理・代用)を導入して学習ノウハウを基に最適形状設計を最速で行うものです。すなわちCAE最適化技術とAI深層学習の融合です。そして今後は、この手法により設計開発をさらにフロントローディングし、設計開発期間を大幅短縮させ、そしてこのシステムをエンジニアリングAIの域にまで進化させコア技術を飛躍させたいと考えています。



技術開発姿勢

こち良さの追求 ～未来に向かって ぶれない開発推進～

当社は、シール&フォームエンジニアリングを自らのコア技術として、常に自動車・住宅・土木・粧装の「こち良さ」の基幹づくりの一角に関わってきました。そして今、その中の自動車は“CASE”の動向により、これまでの単なる移動手段からその役目を大きく広げつつあります。当社もその新たな広がり視野に入れ、これまで積み重ねてきた開発技術・ノウハウ領域に、最新の鋭技術も大胆に取り入れ、未来に向かって力強くチャレンジし続けています。



塗膜で高めるSDGsポテンシャル

こち良さを支えるウェザーストリップ

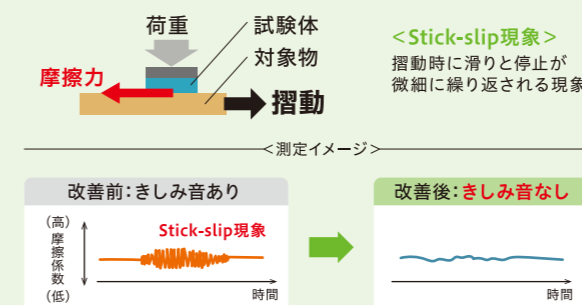
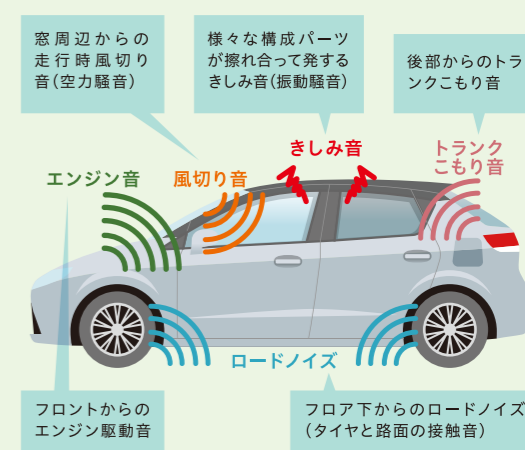
ゴム表面に塗布・定着された塗膜も含め様々な条件に対応した製品づくりに取り組んでいます。

自動車は、大都市や住宅地はもとより、灼熱の砂漠や極寒の荒廃地まで、地球上の様々な場所で利用されています。そこで全天候にさらされ、その気候条件の差は極めて大きいものです。ウェザーストリップは、そこでドア周りからの雨・風・音の侵入を防ぎ、車室内のこち良さを支えています。そのシール(封止)の状態は、必ずしも静的なものだけではなく、一部にはガラスや板金等の摺動や微振動といった動的な作用も加わります。これに対して、単にゴムだけで効果・性能を発現・維持していくことはかなり困難で、実は表面に塗布・定着された塗膜もとても重要な働きをします。当社は長年積み重ねてきたノウハウを基に、製品それぞれの条件にマッチする塗料を自社開発しています。



開発例紹介 音への対処...背反を克服する新塗料誕生!

自動車は、100年に一度の大きな変革の時にあり、その中の一つ「電動化」がもたらす大きな影響に「音の変化」があります。駆動源がエンジンからモーターに置換され、その駆動音が消失すると、それがかき消されていた低速走行時ロードノイズ、きしみ音など、今まであまり気にならなかった音が顕在化してきます。今、当社はこのきしみ音の改善も含めて、ドアシールの新スタンダードを確立すべく開発を進めており、従来からの課題であった異音防止と耐摩耗性向上の背反両立をなす新塗膜を開発しています。これにより走行時の車体ねじれによるきしみ音等を防止しつつ、耐摩耗性は従来比3倍以上(当社データ)を達成。さらにはコーナー部の追従性向上やドア閉じ性向上にも寄与しており、シール観点でのこち良さを大幅向上させています。



塗膜づくりにおいては、従来からその製造工程に大型の乾燥装置が必要であり、当然そこでの製造時エネルギーも必要となります。当社は、このエネルギー問題も含めて今後の塗膜がどうあるべきか、そのための塗料、塗布/乾燥装置をどのようにするか考察しながら、SDGsにも効くトータル塗膜開発を進めています。

地域社会との共生

国内および海外の事業所において、それぞれの地域の慣習・歴史・文化を尊重し、地域に根差したさまざまな活動を行うことで、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。



社会貢献活動理念

西川ゴムは良き企業市民として、豊かな社会の実現に貢献します



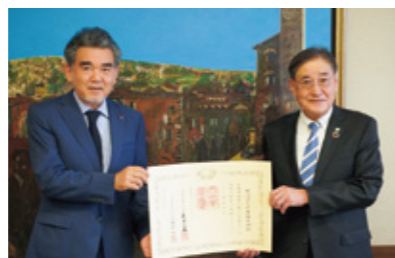
未来を担う人材の育成

当社グループでは、未来を担う人材の育成を企業の責任の1つとして捉え、様々な活動を行っております。日本では、広島大学基金への寄付に対し、紺綬褒章を受章しました。寄付金は新たに建設された国際センターやキャンパスの施設整備に活用されます。海外拠点においても、多くの学生に学びの機会を提供するために、学校や奨学金団体に対する寄付などを積極的に行っております。地域の教育機関や学生を支援する事は、人材育成だけではなく、ひいては当社グループが拠点を置く地域の活性化にもつながります。これからも各地域の慣習・歴史・文化に根差した活動を実施し、地域と共に発展を目指してまいります。



取り組み事例

- 地域学生への奨学金(アメリカ)
- 学校建設への寄付(インド)
- 日本人学校への寄付(インドネシア)
- 学校への食料品の寄付(タイ)



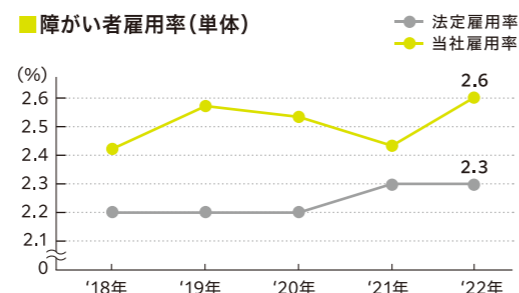
● 広島大学基金への寄付(日本)



● 裁縫教室の開催(インド)

TOPICS 特別支援学校就職サポート隊ひろしま推進企業表彰

当社が行ってきた障がい者の方に対する就労促進への取り組みが評価され、広島県教育委員会より、「特別支援学校就職サポート隊ひろしま」の推進企業として表彰を受けました。当社は、ダイバーシティの一環として、ハンディキャップを持つ方々への理解や就業可能性を検討し、障がい者の雇用促進や職場実習に取り組んでまいりました。特に近年は特別支援学校の生徒の職場見学や就業体験、就業実習を通じて、雇用にも繋がっている点が評価されたものと思います。今後も全ての社員が働きやすく互いに配慮が出来る職場づくりを目指します。



国境を越える社会貢献活動

地域清掃

国内外の各拠点において、地域周辺の清掃活動を実施しております。地域社会と共にあり続けるため、活動を継続していきます。



グローバル

新型コロナ防疫へのボランティア活動

社員の居住区において、コロナ感染者のための配給の食料品の運搬やPCR検査のボランティアを行いました。



中国

小児がん患者の会への寄付

がんと闘う子ども達の夢を叶えるために、寄付とリサイクル品の提供を行っています。リサイクル品は現金化され治療代として充当されます。



メキシコ

慈善団体への食糧寄付

多くの人々が食糧に困らない未来を願って、慈善団体へ食糧の寄付を行いました。当日は多くの方にお越しいただきました。



インド

日本財団チャリティー自動販売機の設置

被災地の復興を願って敷地内に設置しました。飲料代の一部が寄付され、災害復興支援特別基金で有効に活用されます。



日本

飲料水の寄付

タイの旧正月、ソンクラン休暇に活動する団体へ労いの気持ちを込めて飲料水を寄付しました。



タイ

TOPICS 公益財団法人 西川記念財団の取り組み

当財団は、広島県内の親等扶養する家族のない子供たちの教育等を支援することや、広島県民の心身の健全な発達ならびに健康で活力ある生活形成に寄与することを目的に、2013年10月11日に設立されました。現在、広島県内の大学に進学する学生を対象とした奨学金の給付(累計実績:77名)や広島県内の児童養護施設に対し、施設の子供たちが積極的に社会参加できるよう必要資金の支援を行っています。



安全・健康な職場づくり

“社員の安全・健康はすべての事業活動に優先する”を基本行動指針に掲げ、労使協調による働き方改革や健康経営の推進により、ダイバーシティとワークライフバランスの実現を目指します。



健康経営優良法人2022(大規模法人部門)に認定

当社は、経済産業省と日本健康会議が推進する健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人 2022(大規模法人部門)」に認定されました。「健康経営優良法人認定制度」は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を経済産業省が評価・認定する制度です。当社は「健康推進宣言」のもと、健康保持増進活動、疾病の重症化予防、食生活改善、禁煙支援、治療と仕事の両立などの支援活動や教育、体制の充実を会社・健康保険組合・労働組合が三位一体となり取り組んでまいります。



取り組み事例

健康保持増進:ウォーキングアプリ導入
従業員の運動習慣定着のための意識付け

食生活改善:
飲料自動販売機へのカロリー表示
健康に配慮した飲料を
選択する機会の提供



禁煙支援:禁煙講座の開講
禁煙に挑戦したい人への情報提供とサポート

TOPICS ワーク・エンゲイジメントが高まるより良い職場づくり

当社では「ワーク・エンゲイジメントスコア65%以上継続」をESG目標の1つとし、「従業員がやりがい、働きがいを感じ、意欲を高め、主体的かつ意欲的に業務に取り組むことができる企業文化を定着させる」ことを実施事項としています。そして、ワーク・エンゲイジメントを高めるために必要な各職場や組織のリーダーである管理職の「マネジメント力」向上を目的とした活動を行い、よりよい職場環境づくりを進めています。

- ストレスチェックと各職場へのフィードバック
- 2021年度ワーク・エンゲイジメントスコア



健康推進宣言

社員の安全・健康は全ての事業活動に優先する

社員とその家族の心身の健康は、企業経営の基盤であり、安全と健康は全ての活動に優先します。しなやかでたくましく、ゆとりとやりがいをもって業務に励み、定年後も心豊かに健やかで活力ある生活をおくるためには、一人ひとりが自主的に健康の維持増進に取り組む必要があります。そのためには、社是を基本姿勢として、会社・健保・労組が三位一体となり、個性を大切にしつつ、いきいきと働き続けられる環境づくりを行うことが大切です。西川ゴムグループは、そうした活動を通じて、“社員の心身の健康と豊かで活力ある生活”を実現し、活気と一体感のある職場から生み出す製品・サービスを通じて、お客様に「快適」をお届けすることで、社会に貢献していきます。

労働安全衛生の取り組み

「危険体感設備」による危険体感教育の実施

過去、実際に起こった労働災害を再現した危険体感設備を用いて疑似体験することで、安全ルールを守ることの大切さを教育しています。

動画による安全衛生教育の拡充

リモートワークにも対応できるよう、集合形式から動画視聴形式へ研修方法の転換を進めており、フレキシブルかつ標準的な教育実施を目指しています。

快適職場づくり

暑熱などの作業環境測定結果に基づき、快適に仕事ができる環境整備を進めています。

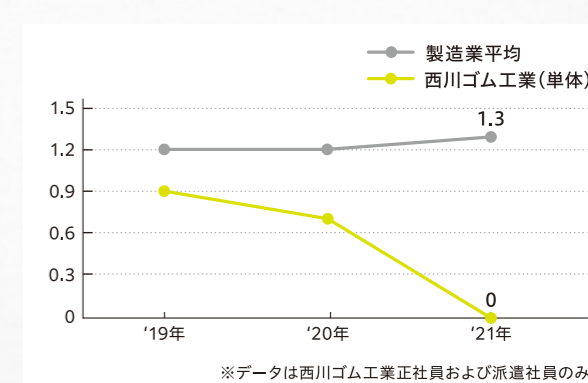
交通安全活動の強化

運転適性検査による性格診断や実技講習などを通じて安全運転に対する意識向上を図っています。



危険体感設備(巻き込まれ)

災害度数率(休業)の推移



※データは西川ゴム工業正社員および派遣社員のみ

ダイバーシティの推進

- 法令以上の育児&介護休職制度
- 時短勤務者のフレックス適用
- ウェルカムバック制度
- 在宅勤務制度
- 女性特有問題に関する研修

制度	法定	西川ゴム
配偶者出産特別休暇	—	2日間
育児休業	1歳に達するまで	3歳に達するまで
育児短時間勤務制度	3歳に達するまで 2時間/日	法定+小学4年生の始期に 達するまで 1時間/日
子の看護休暇	小学校就学前まで 年間5日	小学校4年生の始期に 達するまで 年間10日
介護休暇	年間5日	年間10日
介護休業	93日	12ヶ月

ワークライフバランスの充実



PC自動シャットダウン

以前は20時だったPC自動シャットダウン時刻を、2020年度より19時に変更しました。



誕生日休暇

月末月初等の繁忙期が誕生日で休暇が取りにくい人のために、同月内での振替も可能にしており、取得率は100%です。



週末定時退社日

毎週末日を定時退社日とし、この日は18時にPCが自動シャットダウンされます。



最低有給休暇取得日数の設定

労使で協定を結び、管理職も含めて年間8日の最低取得日数を遵守しています。



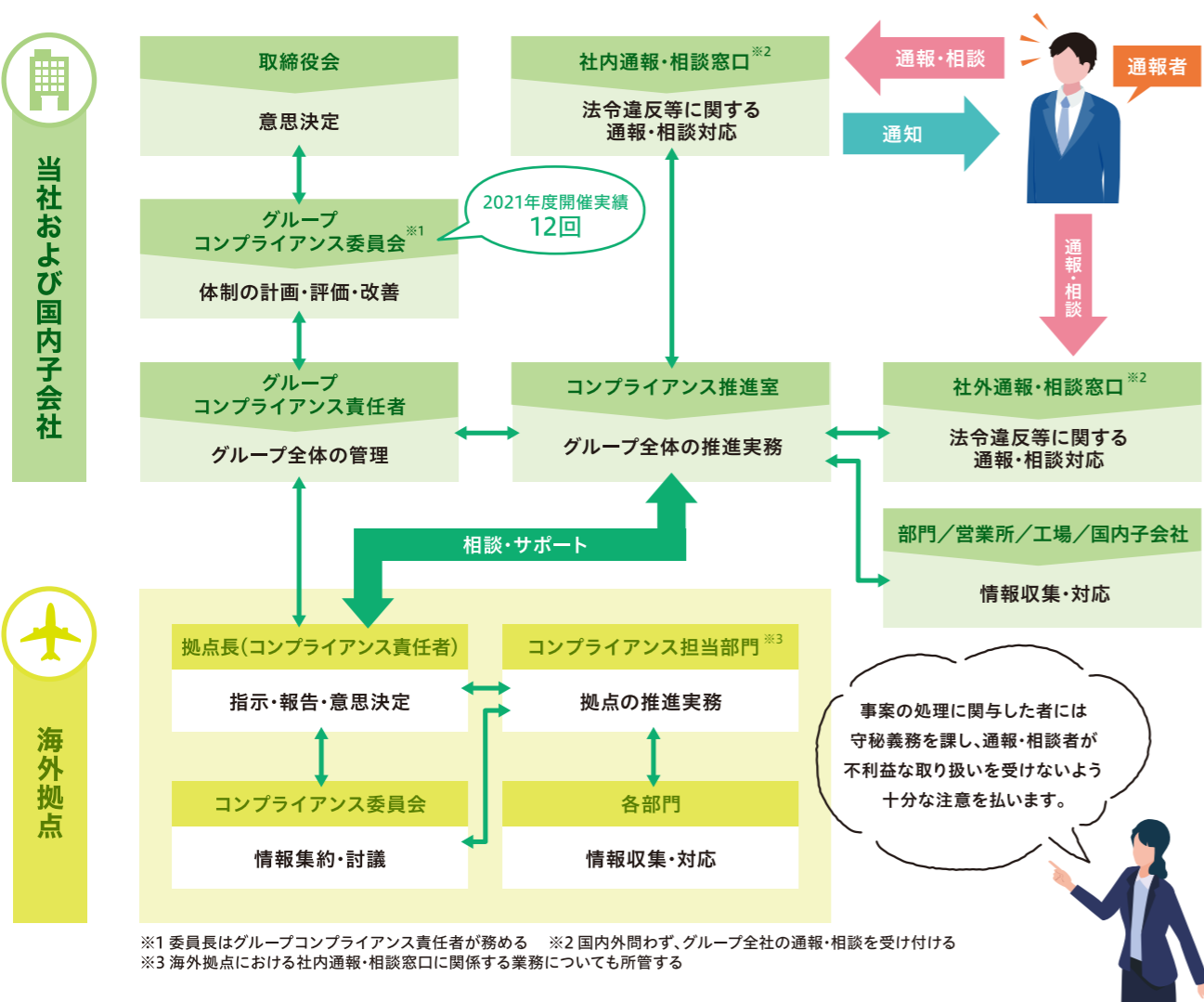
公正な事業慣行

国内外の法令・社会規範および社内ルールを遵守し、高い倫理観に基づき、常に公正・公平な事業活動を行うことで、会社はもとより、社員一人ひとりが、社会から信用される企業市民を目指します。



グローバル・コンプライアンス推進体制

グローバル・コンプライアンス管理の強化を図るため、以下の体制を組織しコンプライアンスに係る活動を推進しています。活動は当社単体としてではなく、西川ゴムグループ全体として取り組んでいます。



POINT 01 **コンプライアンスハンドブックの配付**

国内外の役員・社員に対して、日常業務を遂行する中で遵守すべき行動規範を定めた「コンプライアンスハンドブック」および「コンプライアンスカード」を配付しています。



POINT 02 **内部通報体制の整備と運用**

組織的または個人による不正・違反・反倫理的行為について、その事実を速やかに認識し解決するため、社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設置しています。



コンプライアンスへの基本姿勢

西川ゴムグループは、社是にある「正道」および基本行動指針に則り、法令および社内の諸規定を遵守し、高い倫理観に基づいた公正な活動を遂行します。



具体的な取り組み

入社時や管理職昇格時等の階層別教育はもちろんのこと、毎年9月をコンプライアンス推進月間と位置づけ、コンプライアンス意識の維持向上に努めてまいりました。特に競争法・独占禁止法違反や贈収賄を防止するための活動に積極的に取り組み、継続的な監視を実施しています。

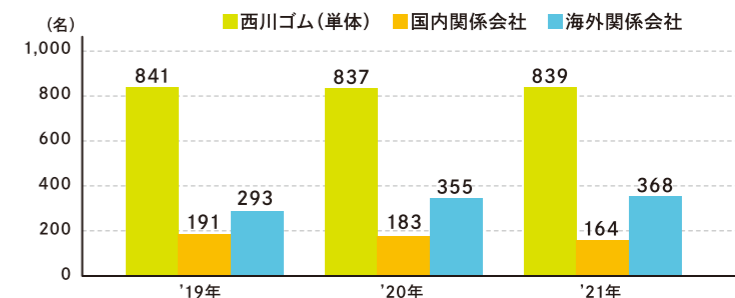


コンプライアンス研修

コンプライアンス推進月間に実施する役員と部門長以上を対象とした集合研修を皮切りに、毎年、当社グループ社員に対し、それぞれのコンプライアンスリスクに合わせた研修を実施しています。集合研修およびコンプライアンスリスクが高い職務に従事している社員への教育は、その時々コンプライアンスに対する社会情勢を鑑みた内容となっています。その他にも、法規制に焦点を当てた研修も実施しています。



■コンプライアンス研修受講者数(高リスク者)



■主な研修テーマ

- 贈収賄規制
- 競争法・独占禁止法リスク
- 営業秘密漏えい問題等に関する近時の動向
- 個人情報保護法や労働関係法令の改正内容

競争法・独占禁止法遵守のための取り組み

競争法・独占禁止法を遵守するために、特に競合他社との接触に細心の注意を払っています。日々の管理の具体例としては、競合他社が同席する可能性のある研修会や会合へ参加する必要がある場合、グループコンプライアンス責任者または拠点長(コンプライアンス責任者)の事前承認を必須としており、参加後は報告書の提出を義務付けています。

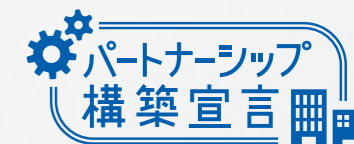
贈収賄防止のための取り組み

贈収賄およびその疑いを招く行為を防止することを目的とした活動に取り組んでいます。2021年度は、第三者を経由した贈賄を防止するために、弁護士や通関業者等との取引に関する監視を強化しました。今後も継続的に新しい視点を取り入れながら活動してまいります。



サプライチェーンマネジメント

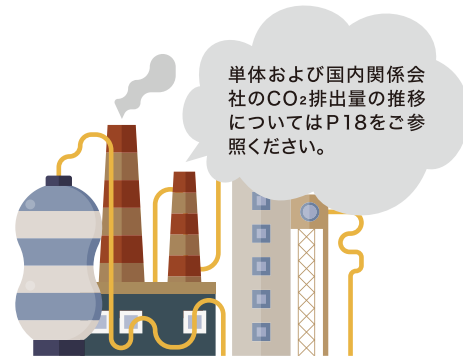
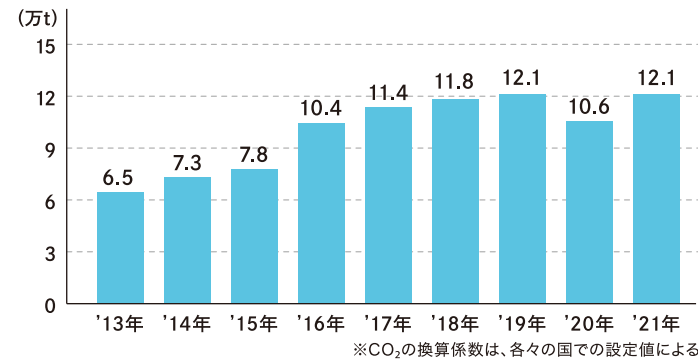
サプライチェーンの取引先、価値創造を図る事業者の皆様と連携し、共存共栄を進めるため、「パートナーシップ構築宣言」を公表し取り組みを進めています。



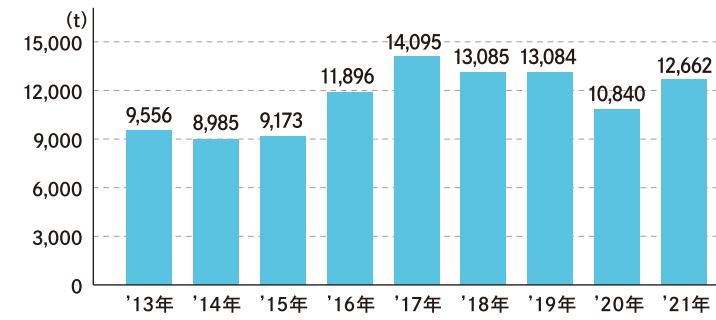
詳細はウェブサイトをご覧ください

https://www.nishikawa-rbr.co.jp/news/items/20221007_2_news.pdf

CO₂排出量推移(海外関係会社)

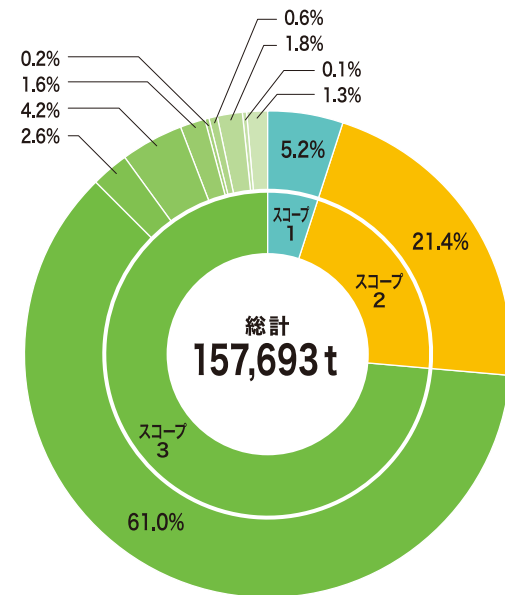


廃棄物量推移(海外関係会社)



2021年度スコープ別CO₂排出量(単体+国内関係会社)

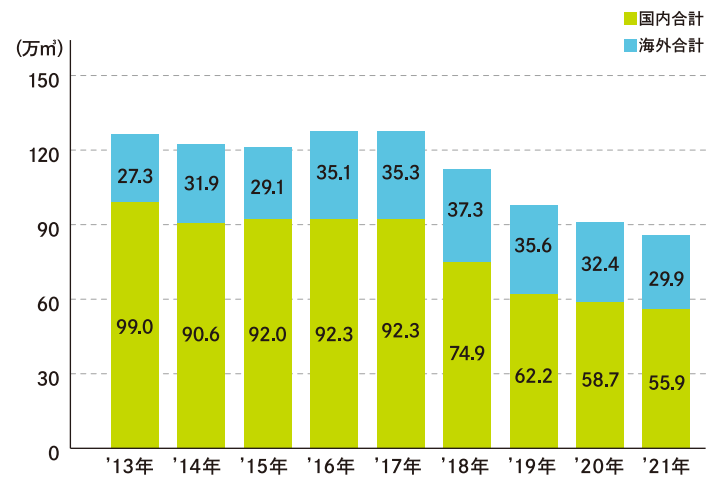
項目	CO ₂ (t)	割合
スコープ1	8,164	5.2%
スコープ2	33,664	21.4%
スコープ3	115,865	61.0%
スコープ1+2+3 総計	157,693	100%



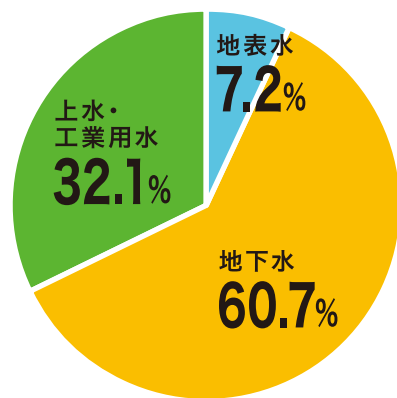
スコープ1+2 26.6% スコープ3 73.4%

※スコープ3のCO₂排出量算定については、環境省策定「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.2) 2022年3月」および、積み上げベースの排出原単位として、「LCIデータベースIDEAv2.3(サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用)」を参照

水使用量の推移



2021年度取水源内訳

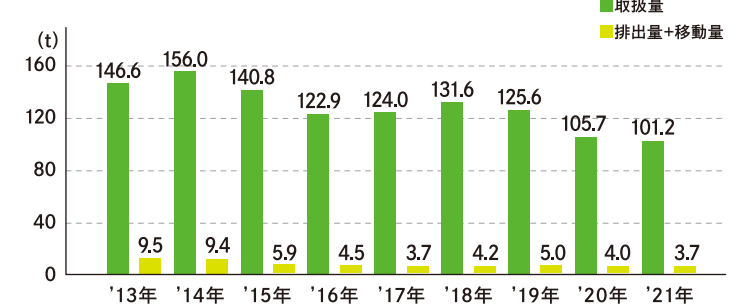


環境負荷物質管理(単体)

2021年度 PRTR物質の移動・排出状況

政令番号	CAS No.	指定化学物質	移動量(廃棄物)	排出量		
				大気	水質	土壌
42	96-45-7	2-イミダゾリジンチオン	1.0t	-	-	-
268	137-26-8	テトラメチルウラムジスルフィド	0.6t	-	-	-
372	95-31-8	ビス(水素化牛脂)ジメチルアンモニウムクロリドN-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミン	0.2t	-	-	-
452	149-30-4	2-メルカプトベンゾチアゾール	1.9t	-	-	-
438	1321-94-4	メチルナフタレン	-	0.02t	-	-
合計			3.7t	0.02t	-	-

PRTR物質の取扱量・排出量+移動量

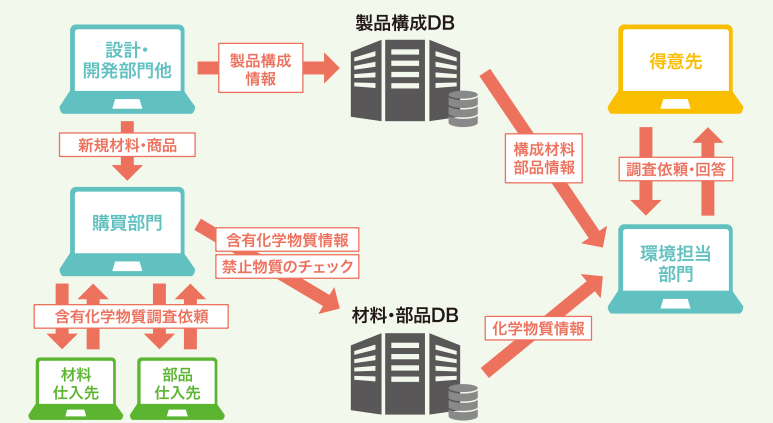


TOPICS 環境コンプライアンス

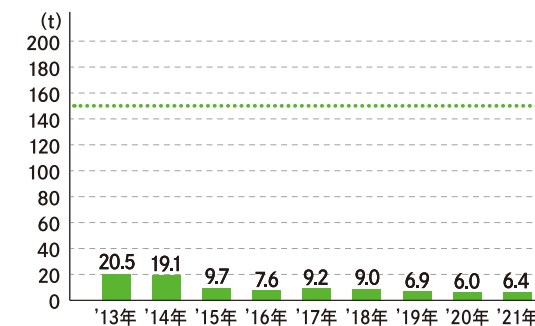
環境負荷物質管理システムの構築

欧州のELV指令※1、RoHS指令※2、REACH規則※3、法規制やお客様からの要求を踏まえ、当社では使用を規制する環境負荷物質(SOC※4)リスト(NSE0001:環境負荷物質の管理規定)を制定するとともに、体制を構築して、SOCの管理・低減をグローバルで取り組んでいます。

- ※1:ELV(End of Life Vehicles)指令
- ※2:RoHS(Restriction of Hazardous Substances)指令
- ※3:REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)規則
- ※4:SOC(Substances Of Concern)



揮発性有機化合物(VOC)排出量推移(単体)



日本ゴム工業会 VOC排出量削減目標 152.6t (2000年度比 50%以上削減)

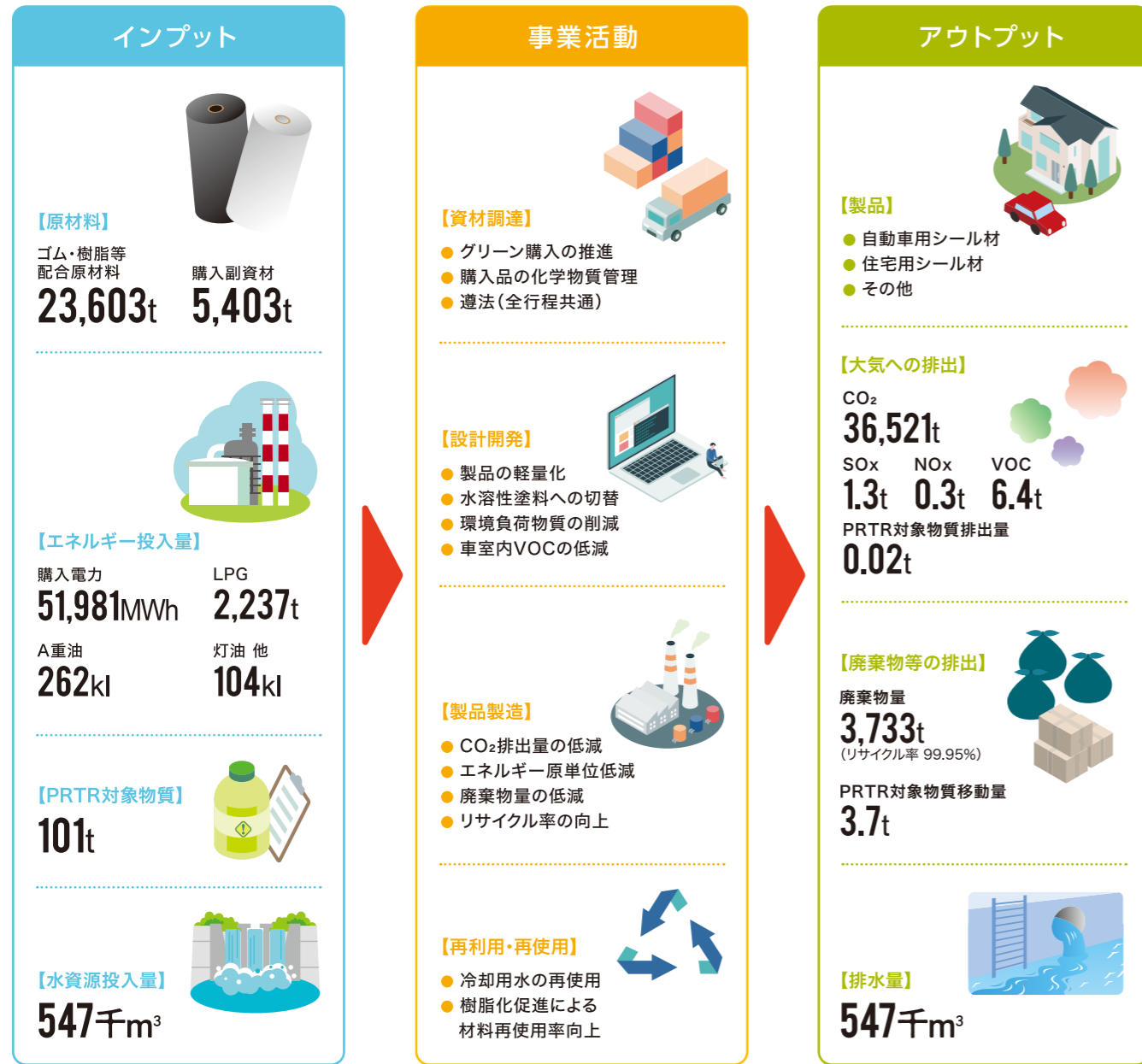
VOC17物質

アセトン、イソプロピルアルコール、キシレン、酢酸ブチル、酢酸エチル、シクロヘキサン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、トリクロロエタン、トルエン、n-ヘキサン、メチルアルコール、メチルイソブチルケトン、メチルエチルケトン、ゴム揮発油、その他の炭化水素(炭素、水素のみで構成されるもの)

ポリ塩化ビフェニル(PCB)含有機器の管理(特別管理産業廃棄物)

2020年度末で“高濃度”含有機器類の法定処分完了。最終処分期限までに、対象設備のモレがないように潰し込みの推進を実施予定。

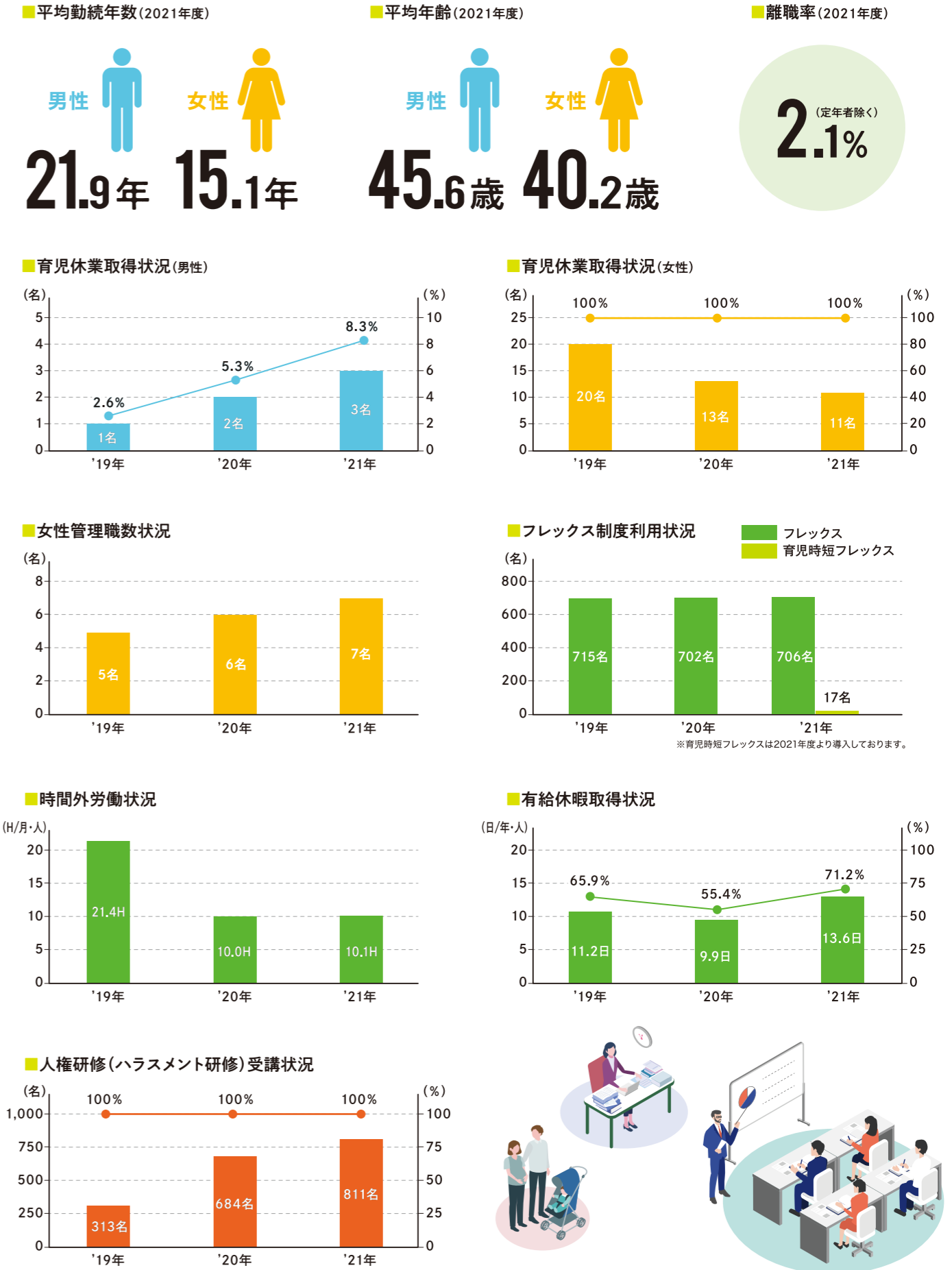
環境パフォーマンスまとめ(単体)



算出方法等

インプット	原材料	購入した原材料・配合薬品類の量
	エネルギー投入量	工場・事業所における、電力、油、ガス等の消費量
	PRTR対象物質	工場・事業所における、PRTR法対象の化学物質を含有する原材料・薬品類の量
アウトプット	大気への排出	CO ₂ :工場・事業所における、エネルギー消費にともなうCO ₂ 排出量(エネルギー消費量×CO ₂ 換算係数) NO _x 、SO _x :工場・事業所の排気口(ボイラー等)から排出される、排ガス中の物質濃度を測定した結果に基づき算出 VOC:対象材料の使用量に基づき算出 PRTR対象物質排出量:ボイラー燃料(重油)の使用量から算出
	廃棄物の排出	対象の年度に、工場・事業所において、埋立処分、単純焼却、リサイクルとして搬出された産業廃棄物の量 PRTR対象物質移動量:PRTR対象物質を含む産業廃棄物量から算出
	排水量	当社の生産工程における水の使用用途は、設備や製品の冷却であり、水資源投入量と同じ値(蒸発量は測定できないため考慮していません)としています

その他データ(単体)



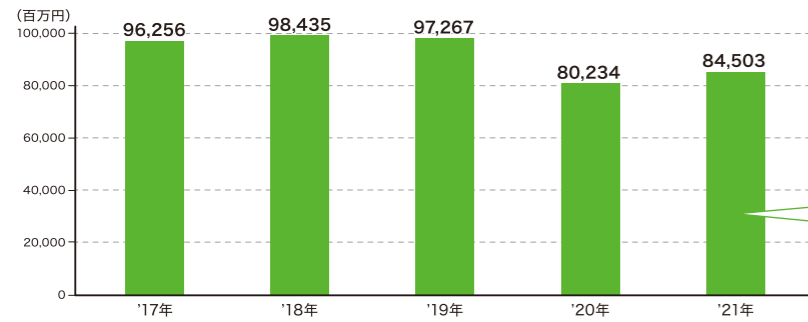


会社概要

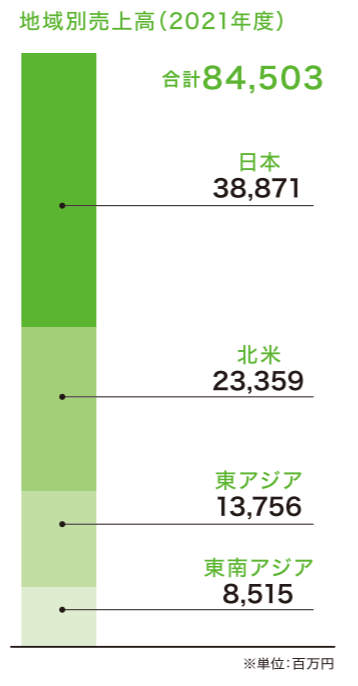
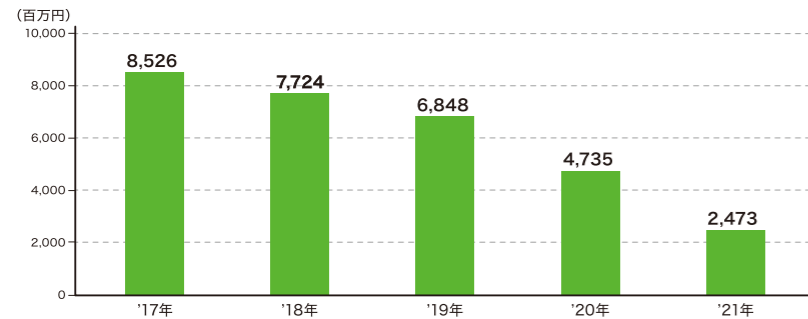
社名 西川ゴム工業株式会社
(NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.)
所在地 〒733-8510
広島県広島市西区三篠町二丁目2番8号
創業 1934年12月
設立 1949年4月
資本金 33億6,448万円
従業員数 単体 1,395名 連結 6,518名
株主数 2,261名
発行済株式の総数 19,596,306株
自己株式399,081株を除く
証券コード 5161

業績推移

売上高(連結)



営業利益(連結)



大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
公益財団法人西川記念財団	1,430	7.3
株式会社ハイレックスコーポレーション	1,241	6.3
西川ゴム工業取引先持株会	1,150	5.9
西川 正洋	1,094	5.6
株式会社広島銀行	957	4.9
三井住友信託銀行株式会社	626	3.2
光通信株式会社	612	3.1
西川 泰央	545	2.8
株式会社山口銀行	544	2.8
西川ゴム工業社員持株会	496	2.5

※千株未満は切り捨てて表示しております。 ※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

グローバルネットワーク

西川ゴムの技術から生み出す製品・サービスを必要としている世界中のお客様のご要望にお応えするため、現在グローバル展開を加速させています。



国内拠点 本社: 広島
営業拠点: 栃木、神奈川、静岡、愛知、大阪、広島、山口
生産拠点: 広島(4工場)
関係会社: 広島(4社)、山口(1社)

編集方針

本レポートは、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様に、西川ゴムグループのCSR活動への理解を深めていただくことを目的に作成しました。当社の2021年度の業績の他、様々な取り組みをご説明しています。

対象期間

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)
※一部対象期間外の活動も含まれます。

報告対象組織

西川ゴム工業株式会社、連結子会社14社および関連会社1社
(うち持分法適用会社1社)

免責事項

本報告書に掲載されている将来予測は、発行時点における情報に基づいて作成しています。今後、事業環境の変化などにより、記載する見通しとは大きく異なる場合があります。ステークホルダーの皆様には、あらかじめご了承いただきますようお願いいたします。

発行日

2022年12月(前回2021年12月、年1回発行)

参考にしたガイドライン/GRI「GRIスタンダード」

【お問合せ先】

西川ゴム工業株式会社 経営企画部 TEL:082-237-9371 FAX:082-237-9361



発行：西川ゴム工業株式会社

お問合せ先：経営企画部

〒733-8510

広島県広島市西区三篠町二丁目2番8号

TEL.082-237-9371 FAX.082-237-9361

<https://www.nishikawa-rbr.co.jp/>